



角川武蔵野ミュージアム
Kadokawa Culture Museum

公益財団法人
角川文化振興財団
Kadokawa Culture Promotion Foundation

公益財団法人角川文化振興財団
2023年4月20日

角川武蔵野ミュージアムで5月20日(土)より「はじめてのBL展」を開催 国内・海外で人気の「ボーイズラブ」の歴史を50年にわたってたどり そのルーツや進化を貴重な原画や雑誌の展示とともに紹介

公益財団法人 角川文化振興財団（所在地：東京都千代田区、理事長：川上量生、以下角川文化振興財団）は、「ところざわサクラタウン」内、角川武蔵野ミュージアム4F エディットアンドアートギャラリーにて、ボーイズラブの歴史と文化をたどる展覧会「はじめてのBL展」を開催いたします。

会期は2023年5月20日(土)～7月16日(日)で、5月分のチケットは現在発売中です。

■ BL の歴史を紐解き、BL とは何かを探り、国内外での BL 文化の広がりを紹介

男性同士の恋愛を扱ったフィクションジャンルのひとつ、ボーイズラブ（以下 BL）。従来、小説やマンガなどで展開されていましたが、近年は映像作品も増え、広く認知されつつあります。テレビやインターネットでは世界中の BL ドラマを見ることができます。

歴史をたどると、1960年代に森茉莉氏が女性作家としては日本で初めて男性同士の性愛を書き、1970年代に入ってから竹宮恵子氏など少女マンガ家が少年同士の恋愛、いわゆる「少年愛」作品を描きはじめました。その後、1978年に初めての専門誌『JUNE』創刊を経て、BLはさまざまなサブカルチャーを生み出し、そのすそ野を広げてきました。

また1992年、角川書店（現・KADOKAWA）は、耽美・BL小説を主に扱う文庫レーベルとして、「角川ルビー文庫」を創刊。それは雑誌『JUNE』で育ったクリエイターたちの活躍の場となりました。

本展では『JUNE』を起点に、専門ジャンルとしての BL の変遷を大きく3つの時代に分け、各時代のエポックメイキングとなる作品やムーブメントを、原画や書籍、雑誌、映像、年表などとともに紹介。BLに詳しい方はもちろん、BLに初めて触れる方でもその文化を知ることができます。

場内では竹宮恵子氏、あさぎり夕氏、紗久楽さわ氏などの「原画」（ダッシュ）や原画、中島梓（栗本薫）氏の小説の直筆原稿、すでに休刊となった BL 雑誌など貴重な展示物を見ることができます。また、会場内一部エリアでは、声優の森川智之氏がナレーションを担当します。



展覧会キービジュアル

©竹宮恵子 1976「風と木の詩」午睡の KISS

※「原画」（ダッシュ）とは、コンピュータにマンガ原稿を取り込み、綿密に色調整を重ねた上で印刷した、精巧な複製原画のことです。マンガ家・竹宮恵子をプロジェクトリーダーとした京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアムのプロジェクトです。

【展示内容】

イントロダクション

このエリアでは、今年上映される映画『タクミくんシリーズ 長い長い物語の始まりの朝。』PV や 2022 年に上映された映画『メタモルフォーゼの縁側』PV など、さまざまな BL に関する映像作品が流れます。

1. 「JUNE の時代」

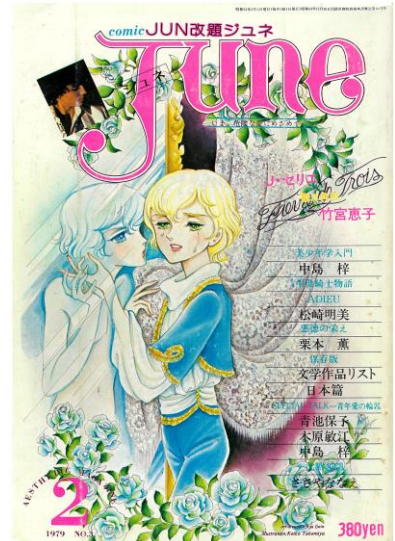
雑誌『JUNE』は 1978 年に創刊されました。男性同士の恋愛をテーマとした作品を中心に掲載し、BL 作家の育成もしており、その後の BL 文化の発展に大きく貢献することとなりました。

このエリアでは、創刊のきっかけとなった元編集長の佐川俊彦氏が話す創刊当時の秘話や誌上で行われた BL マンガ家の人材育成について、また、同誌から誕生して後の BL を率いた作家たちと作品などを網羅的に紹介します。「JUNE 時代」を起点とし、その後の BL 文化の発展について解き明かします。

さらに、『JUNE』と関係が深いマンガ家・竹宮恵子氏が描いた創刊号の表紙や本展のキービジュアルでもある作品『『風と木の詩』午睡の KISS』などの、貴重な原画（ダッシュ）を展示します。

●雑誌『JUNE』（ジュネ）とは

出版社マガジン・マガジン（旧サン出版）が発行していた、男性同性愛をテーマにした女性向け雑誌。1978 年 10 月に『Comic Jun』として創刊され、1979 年、『JUNE』に改題、1995 年に休刊しました。『JUNE』とそこから派生した各誌では、マンガと小説を中心に、関連する映画や文学の紹介がされ、読者による投稿も掲載されました。



『JUNE』1979 年 2 月号
©竹宮恵子／サン出版（ジュネット株式会社）

2. 「やおい」～やまなし、おちなし、いみなし～

「やおい」という言葉のルーツは、1979 年発行の同人誌だと言われています。

その後、80 年代後半からのやおい（二次創作）のブームにより、主にマンガやアニメ、ゲームなどのフィクション作品において 2 人のキャラクターの恋愛関係を攻め×受けで示す「カップリング」表記が生まれ、コミックマーケットに参加するサークル数が急増するなどの社会現象を引き起こしました。その急激な変化を視覚的に説明します。

※本展示では「やおい」を二次創作系同人 BL と定義して取り上げています。



カップリング表記研究家 タルト著書『平成カップリング表記史（仮）』、
『カップリング表記検定（準 2 級）』等（同人誌）

3. 「花ひらく BL 文化」

1990 年代前半から BL マンガ雑誌、BL 小説誌の創刊が相次ぎ、BL 文化がますます注目を集めるようになりました。今年で創刊 30 周年を迎える雑誌『MAGAZINE BE ×BOY』など、BL ファンに広く読まれている雑誌を実物の展示とともに紹介します。

この時代には、BL と BL ではない作品の両方で活躍する作家も増えています。本展ではその中のひとり、あさぎり夕氏の原画を見ることができます。

また、現在では「BL」は世界中に知れ渡り、世界各地でイベントが行われるようになりました。作品数の増加、サブジャンルの広がり、メディアミックス化など BL 作品の広がりを紹介します。

サテライト会場

メイン会場であるエディットアンドアートギャラリーを飛び出し、同じフロアのブックストリートにサテライト会場を設置。ここでは、メイン会場で展示がされている書籍や雑誌などを実際に手に取り読むことができます。



©あさぎり夕「金のカイン」

また、ここでは BL 本の帯についての展示も設置します。もともと本の帯は、本の紹介やキャッチコピー、宣伝文句が記載されており、読者に手に取ってもらう重要なアピールポイントですが、その中でも BL 本の帯は大胆なキャッチコピーが書かれていることで知られています。BL 帯を以前からご自身のサイト「カフェオレ・ライター」で紹介しているフリーライター・マルコ氏の協力を得て、マルコ氏が注目している BL 本の帯を紹介します。

【展覧会概要】

展覧会タイトル：はじめての BL 展

会場：角川武蔵野ミュージアム

〔メイン会場〕4F エディットアンドアートギャラリー 〔サテライト会場〕4F ブックストリート

会期：2023 年 5 月 20 日(土)～7 月 16 日(日)

開館時間：日～木 10:00～18:00／金・土 10:00～21:00 最終入館：閉館の 30 分前

休館日：第 1・3・5 火曜日

展覧会公式サイト: <https://kadcul.com/event/121>

主催：角川武蔵野ミュージアム（公益財団法人 角川文化振興財団）

監修協力：藤本由香里、佐川俊彦、西原麻里、堀あきこ、三崎尚人（順不同、敬称略）

協力：株式会社 KADOKAWA、有限会社トランクライザープロダクト、有限会社ユウプロダクション、

株式会社祥伝社、株式会社シュークリーム、

石田美紀、タルト、マルコ、森川嘉一郎、ヤマダモコ、今岡清、

コミックマーケット準備会、BOOK☆WALKER、株式会社新書館、株式会社リブレ、株式会社アクセルワン、

明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館、葛飾区立中央図書館、

京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター、グロービジョン株式会社、

「タクミくんシリーズ」製作委員会、「不幸くんはキスするしかない！」製作委員会・MBS、

「みなと商事コインランドリー」製作委員会、『メタモルフォーゼの縁側』製作委員会（順不同、敬称略）

チケット価格（税込）：KCM スタンダードチケット（本棚劇場含む）

●オンライン購入（<https://tix.kadcul.com/>）、当日窓口購入

一般（大学生以上）：1,400 円／中高生：1,200 円／小学生：1,000 円

* 休館日、開館時間は変更となる場合があります。最新情報は公式サイトでご確認ください。

* 「1DAY パスポート」チケットなどでも本展覧会をご覧いただけます。詳細は公式サイトでご確認ください。

* 展示替えなどにより、日程によっては一部施設に入場できない場合がございます。

* 展示内容が変更、または中止になる場合がございます。予めご了承ください。

■「角川武蔵野ミュージアム」について

図書館、美術館、博物館が融合した文化複合施設。

館長の松岡正剛氏が世界を読み解く9つの文脈に沿って独自の配架をした「ブックストリート」、博物学者の荒俣宏氏が監修する「荒俣ワンダー秘宝館」、「本と遊び、本と交わる」をテーマにした「本棚劇場」、これら「エディットタウン」は当館のメインエリアです。本棚劇場では、360度を取り囲む高さ8mの巨大本棚にプロジェクションマッピングが映し出されます。

また、マンガや多数の出版社のライトノベルが並ぶ「マンガ・ラノベ図書館」や、企画展が開催される「グランドギャラリー」など、松岡館長が提唱する「想像力とアニメに遊ぶミュージアム」として、様々な「まぜまぜ」を提供します。

建築デザイン監修は隈研吾氏、アート部門ディレクターは神野真吾氏。

公式サイト : <https://kadcul.com/>

Twitter : https://twitter.com/Kadokawa_Museum

Instagram :

https://www.instagram.com/kadokawa_culture_museum

Facebook :

<https://www.facebook.com/kadokawaculturemuseum>

一般の方からのお問い合わせ : 0570-018-396 (10:00-17:00)



© 角川武蔵野ミュージアム

■角川文化振興財団について

角川文化振興財団は「わが国の文化の振興に寄与する」という財団の設立目的実現のために、文芸の成果に対する授賞、文芸に関する出版、文芸の研究や著述の刊行への助成、映画芸術振興に関する助成、また文芸・映画資料の収集・保存・展示等、様々な事業を行っております。

公式サイト : <https://www.kadokawa-zaidan.or.jp/>
